

立川 J C

[東京都]

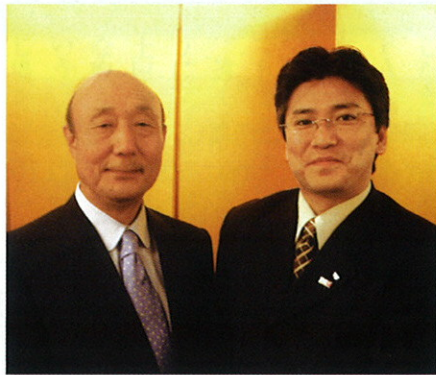
J Cで培った友情を絆として 都市と自然が共生する立川の 地域経済発展の推進力へ

東 京のほぼ中央に位置し、都市と自然が共生する立川には、かつて立川基地の前身である立川飛行場があり、1922年に開港し、1933年に羽田空港が開港するまで国際空港の役割を果たしていました。

1937年、ここから飛び立った日本の飛行機が東京ーロンドン間をノンストップで飛行、しかも当時としては97時間という最短飛行時間で世界新記録を樹立、立川飛行場の名は世界中に広まりました。1977年の立川基地の全面返還によって、立川広域防災基地が設備され、大規模震災時において、災害応急対策活動の中核拠点として現在では使用されています。

そして、長きに渡り戦後の記憶を

まちに残した立川は、その跡地利用に関して昭和天皇陛下御在位50年記念事業の一環として誰もが気軽に利用できる平和への願いを込め、国営昭和記念公園が建設され、現在では、各種イベントの開催や、市民の憩いの場として、そして近隣のみならず



須崎八朗シニアクラブ会長(左)と端晶弘理事長

らず年間300万人近くの来場者がある、立川のメインコンテンツのひとつとして光り輝く存在となっています。現在はこの公園を始め、立川には産学官の様々な施設が集積し、首都・東京を支え、400万人の人口を擁する多摩地域の中心として目覚ましい発展を遂げております。

社団法人立川青年会議所は1965年に東京J Cのスポンサーのもと、全国で300番目、東京では2番目の青年会議所として設立されました。現在では立川市、国立市、武蔵村山市の3市をエリアとする広域青年会議所として、本年は端晶弘理事長のもと、110名の会員で、この7月には東京地域で初となる第21回J C I国際アカデミー in 立川を開催致しました。

O B会組織である立川J Cシニア



2007年度OB合同例会

クラブは総勢約400名のメンバーで構成し、温かく現役の活動を見守りながら、新入会員の紹介や協賛等で現役の活動を側面的に支援しております。そして地域経済界においては、J Cで培った友情が様々な絆としてネットワーク化し、現役、シニアの垣根を超えて、地域経済発展の大きな推進力となっております。今後その絆を大切にしながら、地域におけるJ Cの存在感を更に高めていくと同時に、シニアクラブとして今後45周年、50周年を迎える現役メンバーに対して最大限の支援をして参ります。

日本J Cシニア・クラブ
東京ブロック担当幹事
桂 耕史



歴代理事長会